

JATA18-27  
2018年9月13日発行

## 「2018年9月期(第2回) 旅行市場動向調査」

一般社団法人 日本旅行業協会（JATA）では、JATA会員各社および中連協会員各社へ調査モニターへの登録を依頼し、登録のあった616社を対象として、四半期ごとに「旅行市場動向調査」を実施しております。今回、9月期の調査がまとまりましたのでお知らせします。

### 《海外旅行DI》

DI値は3ヵ月前(4～6月)より+5ポイント上昇しマイナス3。3ヵ月後(10～12月)は-7ポイント低下しマイナス10。6ヵ月後(1～3月)は現況よりも-12ポイント低いマイナス15。

◆現況は米朝韓の平和ムードを受け、韓国をはじめとしてアジアが堅調な回復を牽引。ただし夏休みが終わる3ヵ月後は、ファミリー層の低下などが予想され、低迷する見込み。

### 《国内旅行DI》

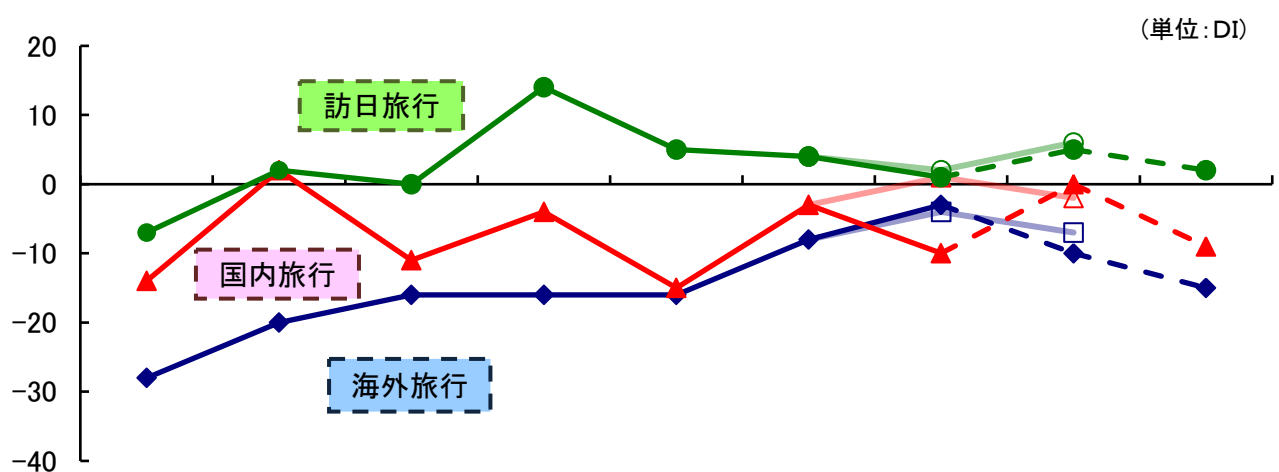
DI値は3ヵ月前(4～6月)より-7ポイント低下しマイナス10。3ヵ月後(10～12月)は+10ポイント上昇し0。6ヵ月後(1～3月)は現況よりも+1ポイント高いマイナス9。

◆現況は7月の西日本豪雨など相次ぐ災害の影響で、特にファミリー層が低迷し3ヵ月前の見込みDI値を大きく下回った。3ヵ月後は、団体旅行に上向き傾向が見られ、回復する見通し。

### 《訪日旅行DI》

DI値は3ヵ月前(4～6月)より-3ポイント低下しプラス1。3ヵ月後(10～12月)は+4ポイント上昇しプラス5。6ヵ月後(1～3月)は現況よりも+1ポイント高いプラス2。

◆現況は7月の西日本豪雨等あったものの、予想は大きく下回らず、プラス圏を辛くも維持した。3ヵ月後は西日本豪雨被災地域やMICE需要の若干の回復が見込まれ、全体として上昇する見通し。



	1年半前 (1～3月)	1年 3ヵ月前 (4～6月)	1年前 (7～9月)	9ヵ月前 (10～12月)	6ヵ月前 (1～3月)	3ヵ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3ヵ月後 (10～12月)	6ヵ月後 (1～3月)
海外旅行全般	-28	-20	-16	-16	-16	-8	-3 ※-4	-10 ※-7	-15
国内旅行全般	-14	2	-11	-4	-15	-3	-10 ※1	0 ※-2	-9
訪日旅行全般	-7	2	0	14	5	4	1 ※2	5 ※6	2

※3ヵ月前の数値は6月18日の大阪府北部地震の影響は含まれず。 ※2018年6月期調査見通し数値  
現況の数値は台風21号による影響と9月6日の北海道胆振地方中東部を震源とする地震の影響は含まれず。

## ■旅行市場動向調査について

一般社団法人 日本旅行業協会（JATA）では、JATA会員および中連協会員各社へ調査モニターへの登録を依頼し、会員1394社中、登録のあった616社を対象として、四半期ごとに「旅行市場動向調査」を実施し、その結果を発表しております。

「旅行市場動向調査」は、現況・先行き（3ヵ月後・6ヵ月後）についてのアンケートを実施し、旅行市場の動向を把握することを目的としております。

調査では各質問事項に対し「良い」「普通」「悪い」「取り扱っていない」で評価を求め、回答数から「取り扱っていない」（無回答を含む）の回答を除いたものを母数として各回答のシェアを算出し、「良い」を選んだ割合（%）から「悪い」を選んだ割合（%）を引いて、「D I」（=Diffusion Index ディフュージョン・インデックス）という景気動向指数に加工して発表しています。D I 値の範囲は、全て良い（100）から、全て悪い（-100）の間の評価となります。

## ◆調査概要

調査地域	： 全国
調査対象	： J A T A 会員各社、中連協会員各社の経営者など
調査方法	： インターネット調査
調査期間	： 2018年8月2日（木）～8月24日（金）
設定数	： 616社
回収数	： 293社
回収率	： 47.6%

※3ヵ月前の数値は6月18日の大阪府北部地震の影響は含まれず。  
現況の数値は台風21号による影響と9月6日の北海道胆振地方中東部を震源とする地震の影響は含まれず。

## ◆業態別区分について

「旅行市場動向調査」では、各業況を業態別に分析しています。  
各業態の定義と今回調査での回答件数は下記の表の通りとなっています。

業態名	定義	社数	比率
総合旅行会社	全国にネットワークを持ち、全分野に商品を持つ大規模な旅行会社	31	10.6%
海外旅行ホールセラー	海外旅行を専業とするホールセラー会社	19	6.5%
海外旅行系旅行会社	旅行業の取扱額が50億円以上で、うち海外旅行の取扱額が80%以上の旅行会社	13	4.4%
国内旅行ホールセラー	国内旅行を専業とするホールセラー会社	4	1.4%
リテラー1	上記以外で旅行業の取扱額が30億円以上の旅行会社	27	9.2%
リテラー2	上記以外で旅行業の取扱額が30億円未満の旅行会社	121	41.3%
インハウス	親会社の業務渡航などを中心に行っている旅行会社	38	13.0%
ネット系旅行会社	上記以外でインターネット販売が中心である会社	13	4.4%
訪日旅行系旅行会社	上記以外で訪日旅行販売が中心である会社	27	9.2%

\*ホールセラー … パッケージツアーの企画・販売を専門に行う旅行会社

この資料についてのお問い合わせは、JATA広報室までお願いします。  
なお、本データはJATAホームページ <http://www.jata-net.or.jp> でご覧になれます。  
TEL : (03)3592-1244

## ■海外旅行全般の業況について

現況は米朝韓の平和ムードを受け、韓国をはじめとしてアジアが堅調な回復を牽引。ただし夏休みが終わる3ヵ月後は、ファミリー層の低下などが予想され、低迷する見込み。

### 総合

海外旅行全般の業況は2年前のマイナス35を底に堅調に回復。前回調査時の回復の勢いを失わず、「韓国」が+11ポイント、「アジア」が+8ポイント、「中国」、「ミクロネシア」が+5ポイントと、順調に上昇している。客層別では夏休みの需要を受け、「学生」が+20ポイント、「教育旅行」が+14ポイント、「ファミリー」が+13ポイント、「OL」が+10ポイントと、2桁台の上昇となった。

### 現況(7～9月) 韓国・アジア上昇で、DI値はプラス圏目前まで迫る。

海外旅行全般は3ヵ月前(4～6月)より+5ポイント上昇し、マイナス3

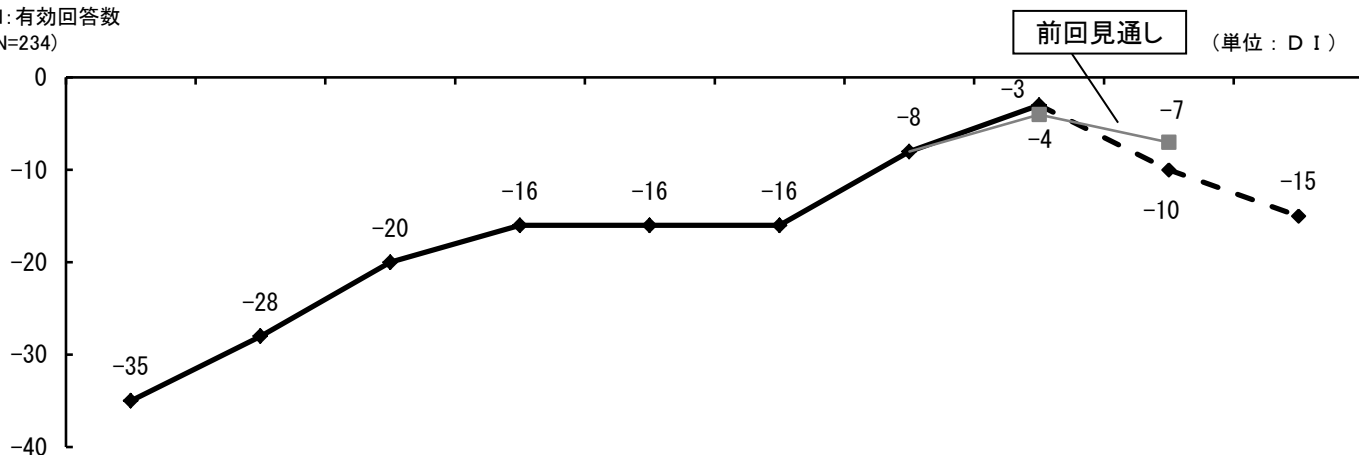
- ・「夏場の学生向け海外ホームステイ及び地方自治体の視察ツアーが継続で発生している。」(リテラー2)
- ・「昨年は北朝鮮ミサイル問題があったので良くなかったが、今年は韓国を中心にアジアの予約が戻ってきている。」(海外旅行ホールセラー)
- ・「夏のファミリー旅行、特に3世代旅行が堅調です。」(総合旅行会社)

### 3ヵ月後(10～12月)の見通しは厳しい状況。

3ヵ月後(10～12月)は-7ポイント低下しマイナス10。6ヵ月後(1～3月)はさらに下がりマイナス15

- ・「9月にある2度の3連休、10月の3連休ともに特に需要が高くなっているとは感じられない。」(インハウス)
- ・「アメリカの動向が世界に与える影響が心配。自由な貿易・交流が停滞すれば、世界的に大きなマイナスになりかねない。」(リテラー2)
- ・「訪日需要がまだまだ好調なだけに航空機の座席確保が厳しい路線が引き続きある。」(海外旅行ホールセラー)

N:有効回答数  
(N=234)



2年前 (7～9月)	1年半前 (1～3月)	1年 3ヵ月前 (4～6月)	1年前 (7～9月)	9ヵ月前 (10～12月)	6ヵ月前 (1～3月)	3ヵ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3ヵ月後 (10～12月)	6ヵ月後 (1～3月)
-35	-28	-20	-16	-16	-16	-8	-3	-10	-15
							※-4	※-7	

※2018年6月期調査見通し数値

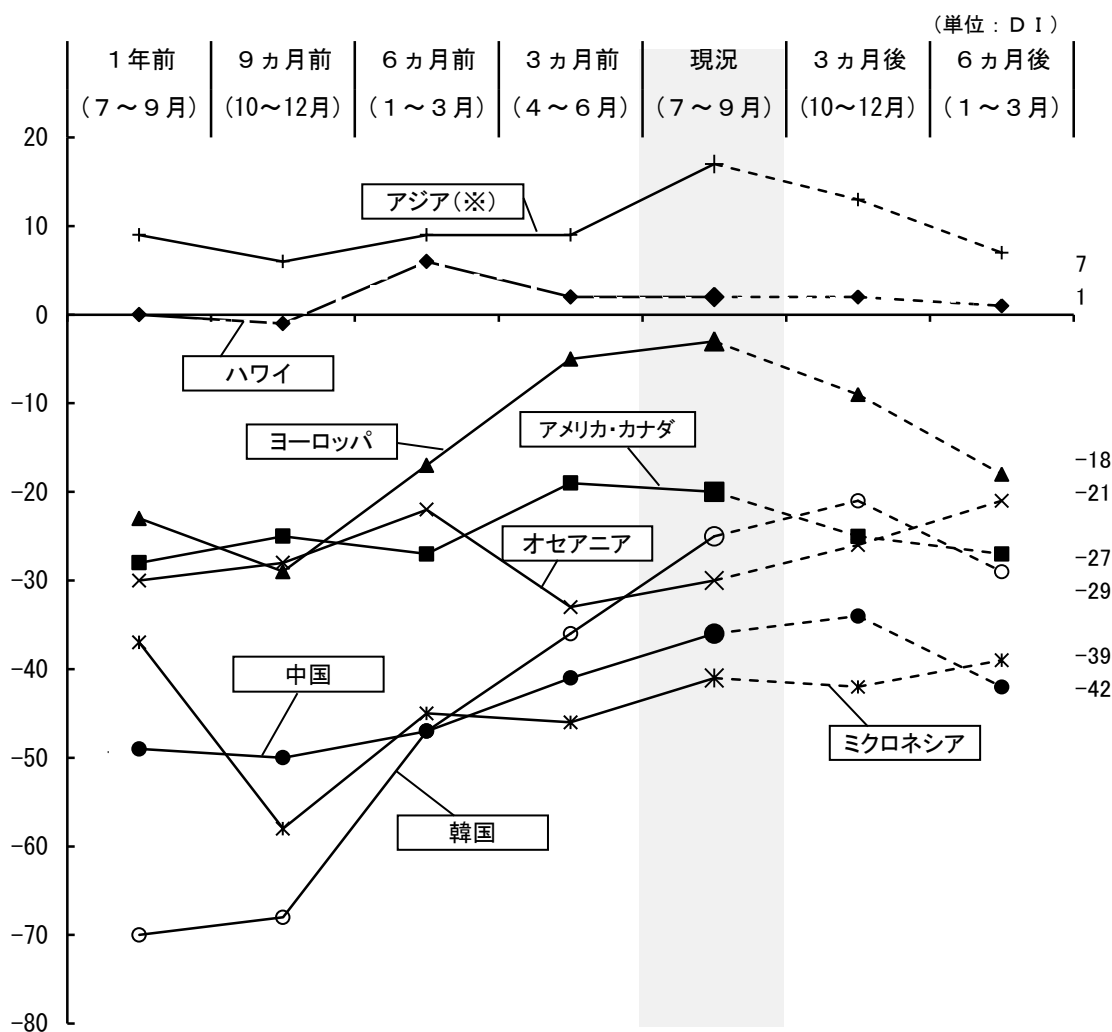
	1年半前 (1～3月)	1年 3ヵ月前 (4～6月)	1年前 (7～9月)	9ヵ月前 (10～12月)	6ヵ月前 (1～3月)	3ヵ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3ヵ月後 (10～12月)	6ヵ月後 (1～3月)
総合旅行会社	-14	11	10	15	9	-4	11	14	-11
海外旅行ホールセラー	-40	-35	-21	-44	-25	-32	17	-11	-22
海外旅行系旅行会社	-16	-9	-14	-17	-35	-6	8	-23	-15
リテラー1	-19	9	3	21	4	43	25	9	9
リテラー2	-37	-34	-26	-39	-24	-15	-25	-21	-25
インハウス	-17	-15	-12	2	-8	0	14	0	-5
ネット系旅行会社	-50	-16	-100	25	-40	-40	12	-14	0

## ◆海外旅行の需要動向（方面別）

韓国を筆頭に、アジア全体が堅調な回復。その他地域もわずかながら上昇傾向。しかし3ヵ月後以降は、多くの地域で緩やかな低下が見込まれる。

- ・ 3ヵ月前(4～6月)に比べ最も上昇したのは「韓国」(+11ポイント)、「アジア(※)」(+8ポイント)、「中国」、「ミクロネシア」(+5ポイント)。その他の地域もわずかながら上昇しており、3ヵ月前を下回った地域は「アメリカ・カナダ」(-1ポイント)のみ。1年前と比べると、「韓国」は+45ポイントと大幅に上昇。「ヨーロッパ」は+20ポイント、「中国」も+13ポイントと順調に推移している。1年前と比べて下回ったのは「ミクロネシア」の-4ポイントのみ。
- ・ 夏休みシーズンの終わる3ヵ月後(10～12月)は、「韓国」、「オセアニア」、「中国」以外の地域では微減が見込まれ、楽観的な見通しとはなっていない。

N:有効回答数  
(N=234)



(単位：D I)

	1年前 (7～9月)	9ヵ月前 (10～12月)	6ヵ月前 (1～3月)	3ヵ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3ヵ月後 (10～12月)	6ヵ月後 (1～3月)
ハワイ	0	-1	6	2	2	2	1
アメリカ・カナダ	-28	-25	-27	-19	-20	-25	-27
ヨーロッパ	-23	-29	-17	-5	-3	-9	-18
オセアニア	-30	-28	-22	-33	-30	-26	-21
ミクロネシア	-37	-58	-45	-46	-41	-42	-39
アジア(※)	9	6	9	9	17	13	7
中国	-49	-50	-47	-41	-36	-34	-42
韓国	-70	-68	-47	-36	-25	-21	-29

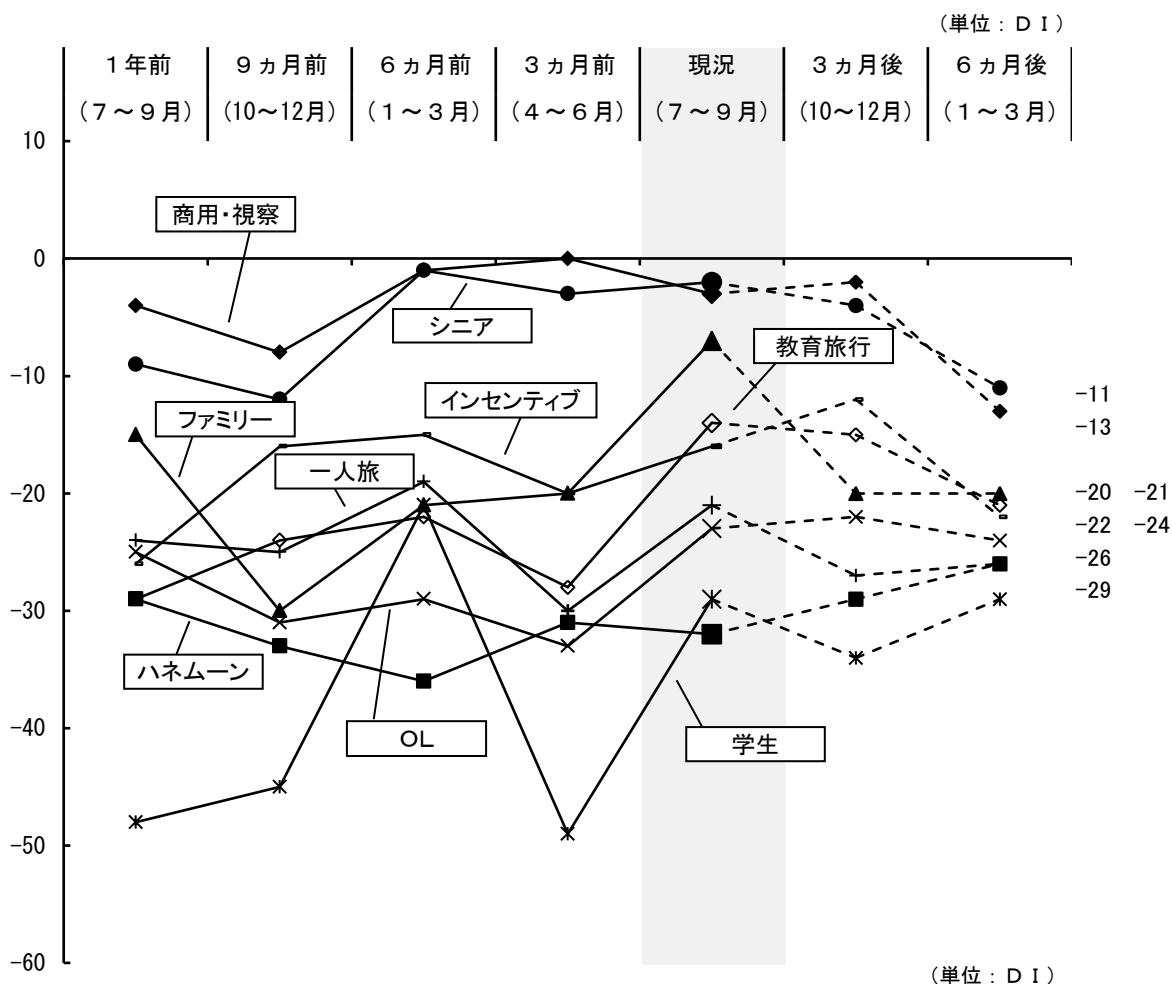
(※) 前期より記載を「アジア」から「アジア(中国・韓国を除く)」に変更して調査

◆海外旅行の需要動向（顧客層別）

夏休みを受け、学生、教育旅行などが3カ月前より2桁の上昇。これらは前年比でも大幅増となった。しかし3カ月後は夏休みの終わりにより、ファミリーをはじめ減少が見込まれる。

- ・ 3カ月前と比べて「学生」が+20ポイント、「教育旅行」が+14ポイント、「ファミリー」が+13ポイント、「OL」が+10ポイントと順調な増加。減少は「商用・視察」の-3ポイント、「ハネムーン」の-1ポイントのみであり、いずれも微減である。前年比でも「学生」が+19ポイント、「教育旅行」が+15ポイント、「インセンティブ」が+10ポイントなど順調。
- ・ 3カ月後(10~12月)は夏休みシーズンの終わりを受け、「ファミリー」の-13ポイントをはじめ、全体的に緩やかに減少する見込み。「インセンティブ」が+4、「ハネムーン」が+3、「OL」、「商用・視察」が+1など、増加が見込まれる顧客層もあるが、いずれも微増。

N:有効回答数  
(N=234)



	1年前 (7~9月)	9カ月前 (10~12月)	6カ月前 (1~3月)	3カ月前 (4~6月)	現況 (7~9月)	3カ月後 (10~12月)	6カ月後 (1~3月)
ハネムーン	-29	-33	-36	-31	-32	-29	-26
ファミリー	-15	-30	-21	-20	-7	-20	-20
OL	-25	-31	-29	-33	-23	-22	-24
学生 (教育旅行を除く)	-48	-45	-21	-49	-29	-34	-29
シニア (60歳以上)	-9	-12	-1	-3	-2	-4	-11
一人旅	-24	-25	-19	-30	-21	-27	-26
インセンティブ(*)	-26	-16	-15	-20	-16	-12	-22
商用・視察	-4	-8	-1	0	-3	-2	-13
教育旅行	-29	-24	-22	-28	-14	-15	-21

\*「インセンティブ」:企業・団体等が従業員への報奨として提供する旅行

## ■国内旅行全般の業況について

現況は豪雨など相次ぐ災害の影響で、特にファミリー層が低迷、3カ月前の見込みDI値を大きく下回った。ただし3カ月後は、団体旅行に上向き傾向が見られ、回復する見通し。

### 総合

国内旅行全般の業況は、相次ぐ災害の影響を受け、夏休みにも関わらず3カ月前のマイナス3から-7ポイント減少と、前回の見込みを大きく下回る苦戦を強いられた。特に「山陽・山陰」は-18ポイント、四国は-12ポイントの大幅減。ただし猛暑の影響か、甲信越等の避暑地が伸びるなど、人気の目的地が例年とは若干ずれた印象。「九州」は災害の影響はあったが、前年から2桁の伸び。個人観光旅行も3カ月前からのマイナスはないものの、前年同時期に最も高かった「ファミリー」がマイナス圏で低迷し、プラス圏は「シニア」のみとなった。団体旅行も夏休みながら足踏み状態。しかし団体旅行は3カ月後「職場」がマイナス圏を脱するなど、全体として回復が見込まれている。

### 現況(7~9月)は西日本が激減、特に「ファミリー」が伸び悩み。

国内旅行全般は3カ月前(4~6月)より-7ポイント低下し、マイナス10

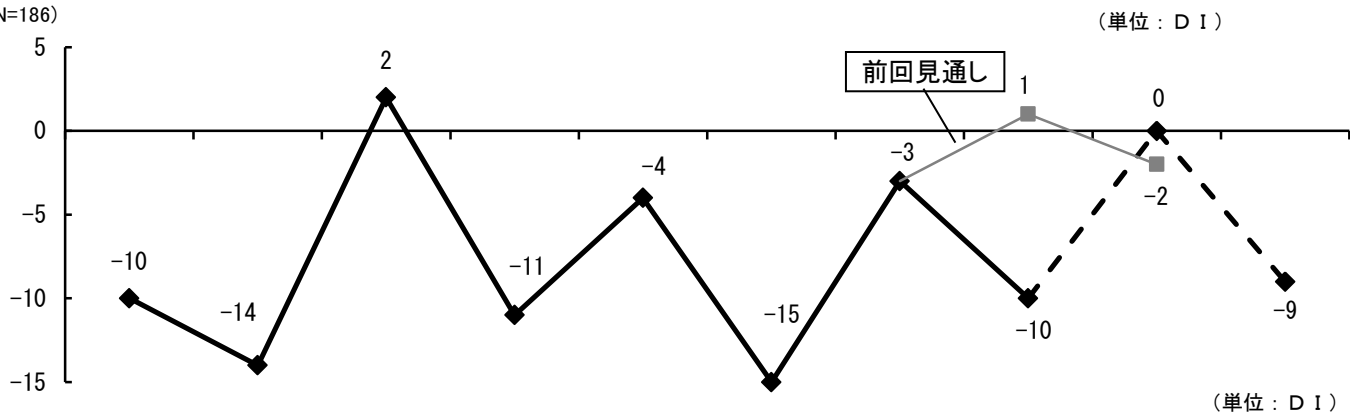
- ・「西日本豪雨災害により、交通機関の寸断や風評被害などが発生し、送客は激減している。また、猛暑の影響により例年の人気の目的地に変化が生じ、特に避暑地が人気。」(総合旅行会社)
- ・「ファミリー・個人利用が減少している。」(リテラー2)
- ・「天草・長崎、世界遺産関連、人気あり。」(リテラー1)

### 3カ月後(10~12月)は連休を多数控え、団体旅行の持ち直し等もあり、上向き見通し。

3カ月後は+10ポイント上昇し0。6カ月後(1~3月)は現況より+1ポイント高いマイナス9

- ・「シニア層の旅行需要は引続き活発傾向。」(インハウス)
- ・「近県の日帰り旅行商品は好調。遠方の商品は目的特化型商品に対する反応は良い。」(リテラー1)
- ・「先行需要は良いが直近の伸びがない。」(総合旅行会社)

N:有効回答数  
(N=186)



2年前 (7~9月)	1年半前 (1~3月)	1年 3カ月前 (4~6月)	1年前 (7~9月)	9カ月前 (10~12月)	6カ月前 (1~3月)	3カ月前 (4~6月)	現況 (7~9月)	3カ月後 (10~12月)	6カ月後 (1~3月)
-10	-14	2	-11	-4	-15	-3	-10	0	-9
							※1	※-2	

※2018年6月期調査見通し数値

	1年半前 (1~3月)	1年 3カ月前 (4~6月)	1年前 (7~9月)	9カ月前 (10~12月)	6カ月前 (1~3月)	3カ月前 (4~6月)	現況 (7~9月)	3カ月後 (10~12月)	6カ月後 (1~3月)
総合旅行会社	-19	18	-15	-7	-17	10	-11	11	7
国内旅行ホールセラー	0	-33	0	-33	-17	-27	-25	-50	0
リテラー1	-19	20	0	21	-19	-5	-20	-8	-15
リテラー2	-16	5	-16	-5	-11	-3	-10	2	-12
インハウス	7	-7	-3	0	-11	6	9	0	-6
ネット系旅行会社	-67	-43	-27	-20	-33	-50	-33	-16	-33

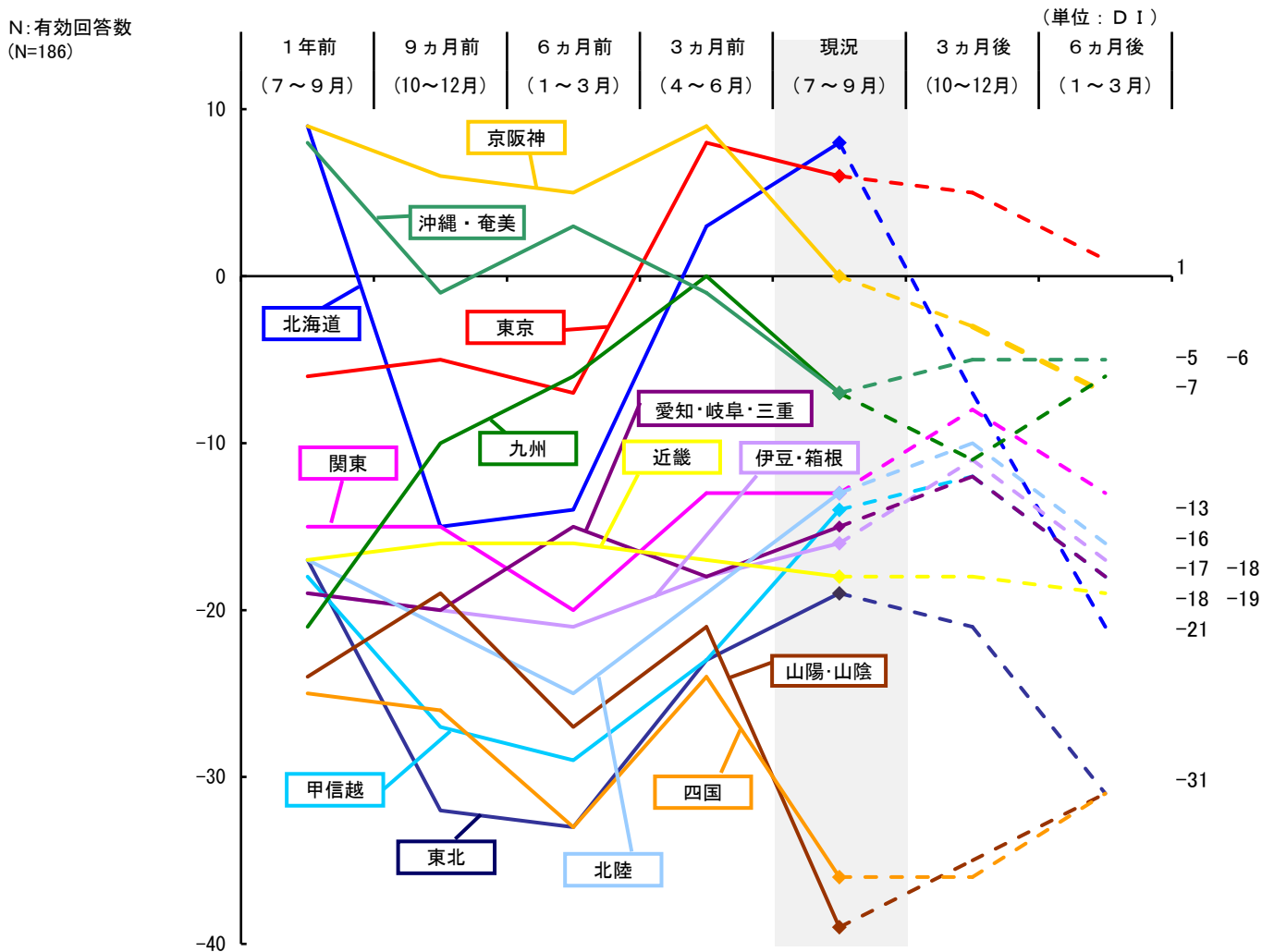
※3カ月前の数値は6月18日の大阪府北部地震の影響は含まれず。

現況の数値は台風21号による影響と9月6日の北海道胆振地方中東部を震源とする地震の影響は含まれず。

◆国内旅行の需要動向（方面別）

現況は、大阪府北部地震や西日本豪雨等で山陽・山陰や四国が激減。ただし猛暑の影響か、甲信越など避暑地の需要は増加した。夏休みの終わる3ヵ月後は全体的に微増から低下とみられ、西日本の回復も厳しい。

- ・ 現況は3ヵ月前(4～6月)に比べ、「山陽・山陰」(-18ポイント)、「四国」(-12ポイント)など、被災地を中心に西日本全体が厳しい推移。一方で猛暑の影響か、「甲信越」(+9ポイント)、「北陸」(+6ポイント)、「北海道」(+5ポイント)など避暑地は好調。また西日本が不調な中、長崎で世界遺産登録もあった「九州」は、西日本で唯一前年比が大幅上昇と、熊本震災からの回復が続いている。
- ・ 3ヵ月後(10～12月)は、夏休みの終わりを受け「北海道」が-15ポイントと大幅減の見込み。他地域もプラス圏は「東京(TDR・横浜含む)」のみと、苦戦が続く。西日本も全体的に大きな回復は見込まれない。

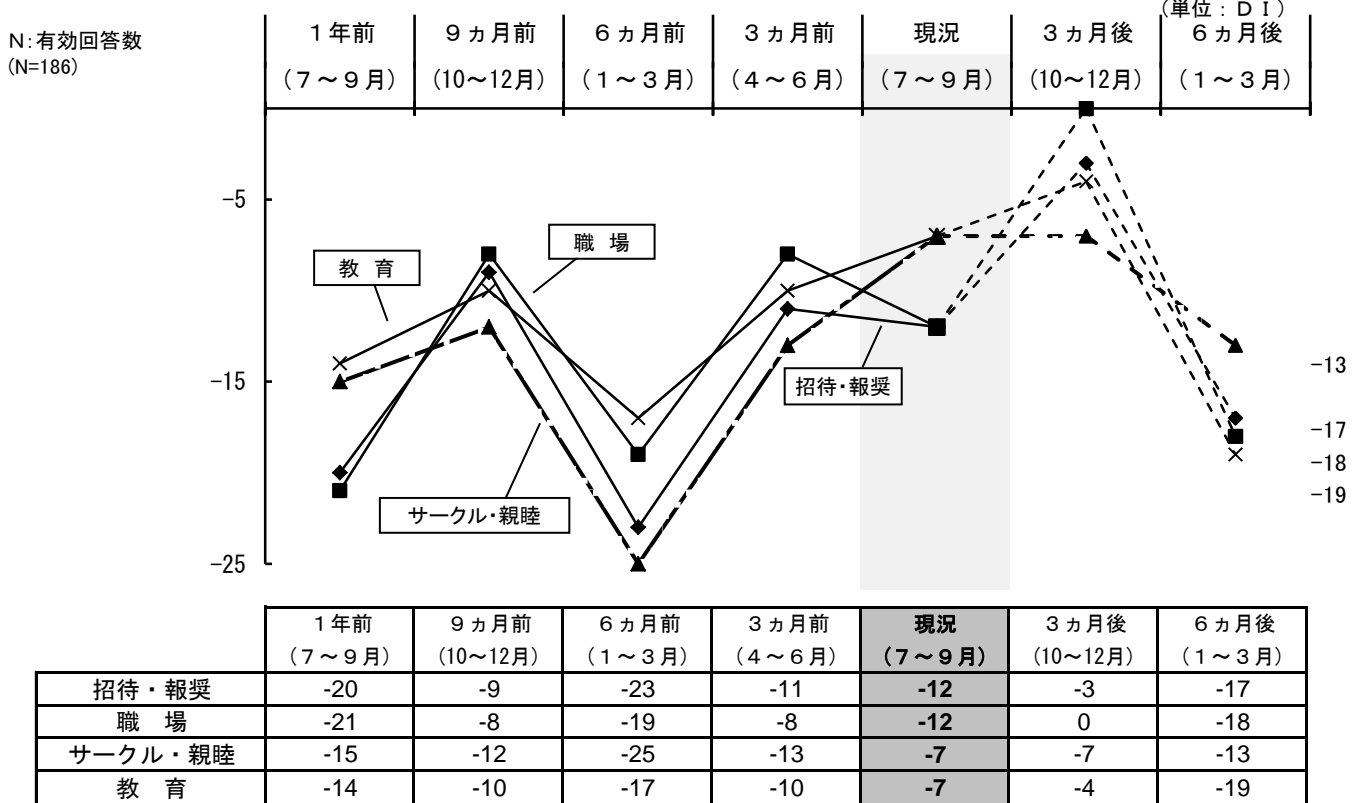


	1年前 (7～9月)	9ヵ月前 (10～12月)	6ヵ月前 (1～3月)	3ヵ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3ヵ月後 (10～12月)	6ヵ月後 (1～3月)
北海道	9	-15	-14	3	8	-7	-21
東北	-17	-32	-33	-23	-19	-21	-31
東京(TDR・横浜を含む)	-6	-5	-7	8	6	5	1
関東	-15	-15	-20	-13	-13	-8	-13
甲信越	-18	-27	-29	-23	-14	-12	-18
伊豆・箱根(静岡を含む)	-19	-20	-21	-18	-16	-11	-17
愛知・岐阜・三重	-19	-20	-15	-18	-15	-12	-18
北陸	-17	-21	-25	-19	-13	-10	-16
京阪神(京都・大阪・USJ)	9	6	5	9	0	-3	-7
近畿	-17	-16	-16	-17	-18	-18	-19
山陽・山陰	-24	-19	-27	-21	-39	-35	-31
四国	-25	-26	-33	-24	-36	-36	-31
九州	-21	-10	-6	0	-7	-11	-6
沖繩・奄美	8	-1	3	-1	-7	-5	-5

※3ヵ月前の数値は6月18日の大阪府北部地震の影響は含まれず。  
 現況の数値は台風21号による影響と9月6日の北海道胆振地方中東部を震源とする地震の影響は含まれず。

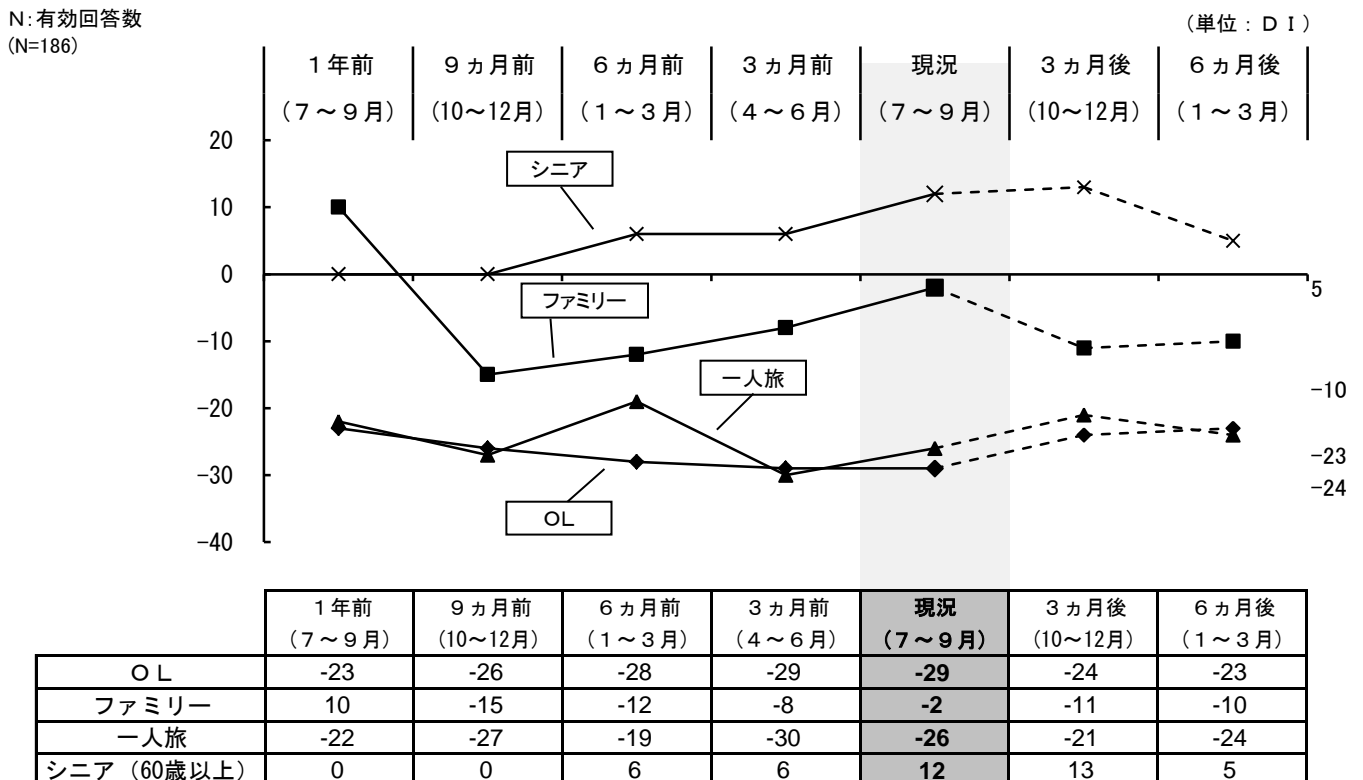
## ◆国内旅行の需要動向（団体旅行）

- ・ 現況は3カ月前(4～6月)に比べ、「サークル・親睦」は+6ポイント増加するも、「職場」が-4ポイント低下するなど、全体としては足踏み。ただし1年前に比べると、あくまでマイナス圏での推移だが全ての項目で順調に上昇。
- ・ 暑さがやわらぐ3カ月後(10～12月)は、「職場」が+12ポイントで、ようやくマイナス圏脱出の見込み。「招待・報奨」も+9ポイントと、全体的に回復する見通しとなった。



## ◆国内旅行の需要動向（個人観光旅行）

- ・ 現況は3カ月前比で「シニア」と「ファミリー」が+6ポイント、「一人旅」が+4ポイントだが、「ファミリー」は1年前に比べ-12ポイントで、夏休みシーズンにもかかわらずマイナス圏という結果となり、大変苦戦した。
- ・ 3カ月後(10～12月)は「ファミリー」が-9ポイントと低下するも、そのほかは堅調な動きとなる見込み。



※3カ月前の数値は6月18日の大阪府北部地震の影響は含まれず。

現況の数値は台風21号による影響と9月6日の北海道胆振地方中東部を震源とする地震の影響は含まれず。



## ■訪日旅行全般の業況について

現況は西日本豪雨等あったものの、予想は大きく下回らず、プラス圏を辛くも維持した。  
3ヵ月後は西日本豪雨被災地域やMICE需要の若干の回復が見込まれ、全体として上昇する見通し。

### 総 合

現況は3ヵ月前から-3ポイントとやや低下。「近畿」(-21ポイント)、「山陽・山陰・四国」(-20ポイント)、「甲信越・北陸」(-17ポイント)、「九州」(-10ポイント)など、2桁の低下となった地域が目立つ。しかし「北海道」(+8ポイント)、「関東(茨木・栃木・群馬)」(+5ポイント)など増加した地域もあり、DI値はほぼ予想通りの推移となった。3ヵ月後は「MICE」(+6ポイント)や「団体」(+4ポイント)の若干の持ち直しが見込まれており、訪日旅行全般でも上向きの展望となった。

### 現況(7~9月)は災害にも関わらず前回の見込みを大幅に割ることなく、例年程度の推移。

訪日旅行全般は3ヵ月前(4~6月)より-3ポイント低下し、プラス1。

- ・「売り上げで前年比若干のマイナスですが、大きな変化はありません。」(リテラー2)
- ・「東京への需要は常に高いのですが、ホテル料金の高騰が解消されないのが苦労しています。」(リテラー2)
- ・「夏場の来沖観光客の動きがあまり良く無く感じる。」(訪日旅行系旅行会社)

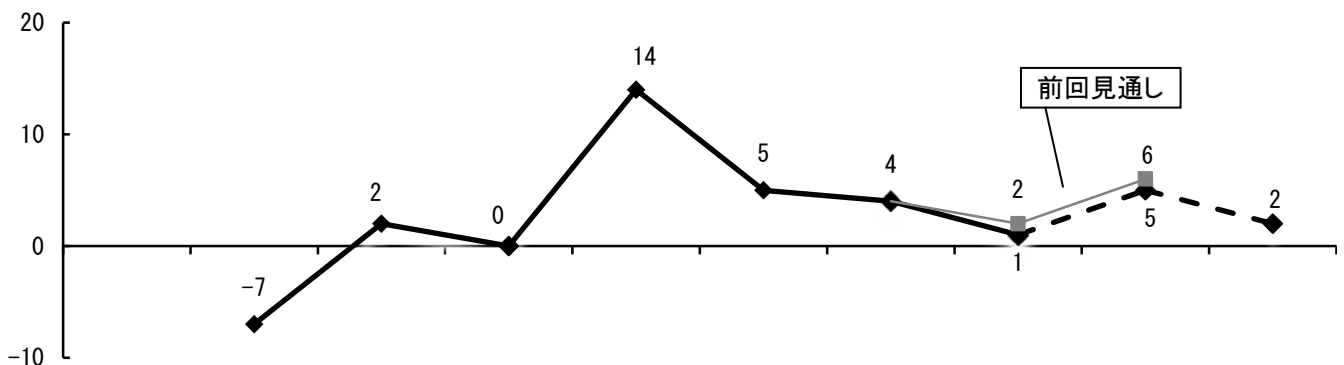
### 3ヵ月後は「MICE」と「団体」がやや増加し、全体としても回復の見通し。

3ヵ月後(10~12月)は+4ポイント上昇しプラス5。6ヵ月後(1~3月)は現況より+1ポイント高いプラス2。

- ・「MICE関連の取扱は今後も期待できそうだが、FITはこの先受注機会が少なくなりそう。」(インハウス)
- ・「団体は安定して集客が続いている。ツアー形態も単純な観光から公務ツアー、視察や体験型へシフトしつつある。」(リテラー1)
- ・「中国からの、日本の老舗企業(百年企業)や有名企業への訪問ツアーの問合せが増えている。」(リテラー2)

(単位：DI)

N:有効回答数  
(N=120)



(単位：DI)

2年前 (7~9月)	1年半前 (1~3月)	1年 3ヵ月前 (4~6月)	1年前 (7~9月)	9ヵ月前 (10~12月)	6ヵ月前 (1~3月)	3ヵ月前 (4~6月)	現況 (7~9月)	3ヵ月後 (10~12月)	6ヵ月後 (1~3月)
(*)	-7	2	0	14	5	4	1 ※2	5 ※6	2

\* 訪日旅行の調査は2016年12月期(10~12月)より開始。

※2018年6月期調査見通し数値

	1年半前 (1~3月)	1年 3ヵ月前 (4~6月)	1年前 (7~9月)	9ヵ月前 (10~12月)	6ヵ月前 (1~3月)	3ヵ月前 (4~6月)	現況 (7~9月)	3ヵ月後 (10~12月)	6ヵ月後 (1~3月)
総合旅行会社	16	30	19	16	8	29	18	22	22
リテラー1	-12	18	-22	20	11	0	10	10	10
リテラー2	-21	-3	-24	0	15	-11	-3	-14	-11
インハウス	-25	5	0	12	-27	-15	-9	0	-25
ネット系旅行会社	100	-34	40	0	67	33	0	0	0
訪日旅行系旅行会社	-10	-11	-3	17	0	10	-4	8	9

※3ヵ月前の数値は6月18日の大阪府北部地震の影響は含まれず。

現況の数値は台風21号による影響と9月6日の北海道胆振地方中東部を震源とする地震の影響は含まれず。

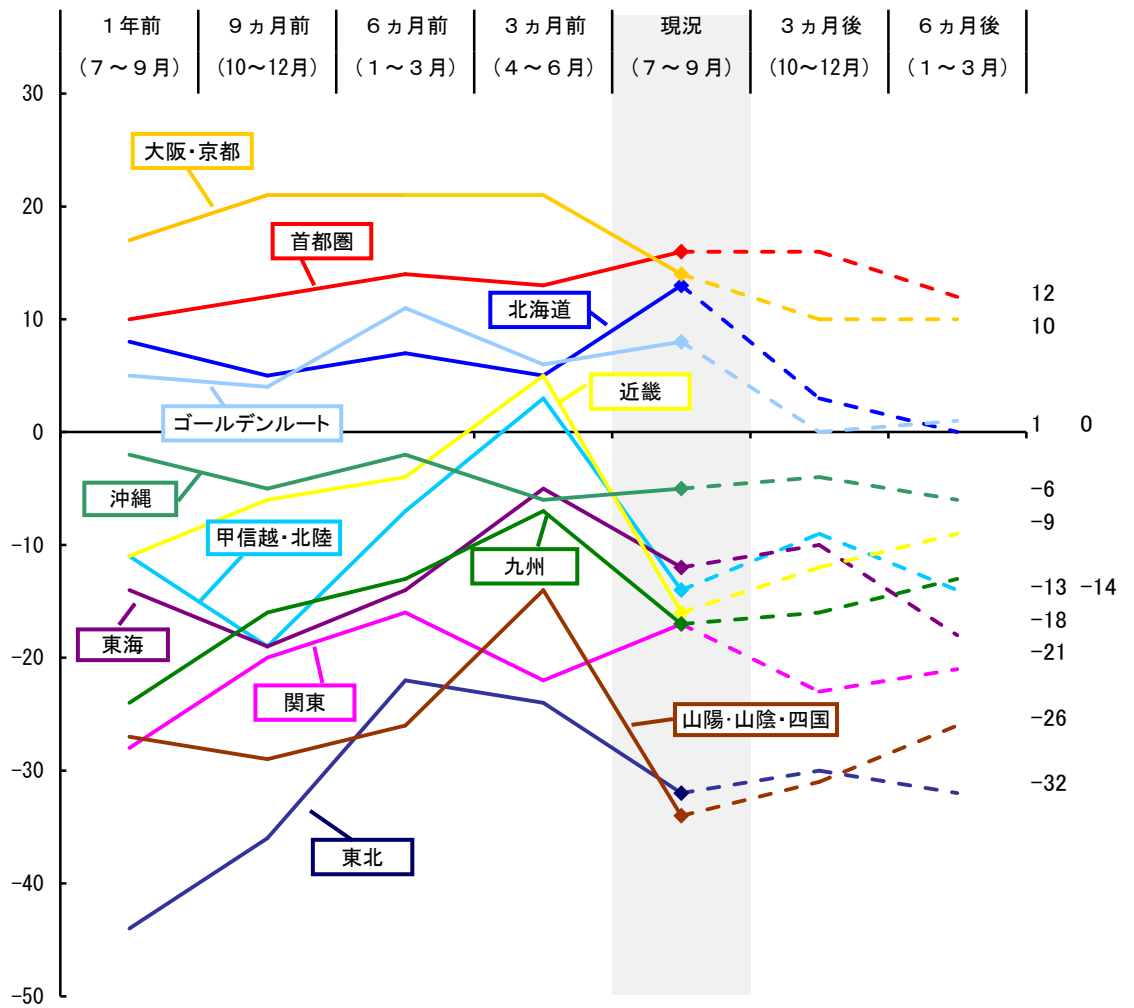
## ◆訪日旅行の需要動向（方面別）

現況は、西日本豪雨の影響か近畿等が例年に比べ不調だが、定番の北海道などは順調。しかし3ヵ月後、被災地域では若干の回復が見込まれるも、定番観光地は低下の見通し。

- ・ 災害や異常気象を受け、「近畿」(-21ポイント)や「山陽・山陰・四国」(-20ポイント)などが大幅減。「甲信越・北陸」(-17ポイント)なども大きく低下し、1年前と比べても不調。しかし「北海道」(+8ポイント)、「関東(茨木・栃木・群馬)」(+5ポイント)など増加もあり、全体としてはおおよそ例年通りとなった。
- ・ 3ヵ月後(10~12月)は、「近畿」(+4ポイント)、「山陽・山陰・四国」(+3ポイント)と、わずかながら被災地域が回復する見込み。一方で「北海道」(-10ポイント)、「ゴールデンルート」(-8ポイント)、「大阪・京都(USJ含む)」(-4ポイント)等、DI値プラス圏の人気観光地の低下が目立つ見通しとなった。

(単位：DI)

N:有効回答数  
(N=120)



(単位：DI)

	1年前 (7~9月)	9ヵ月前 (10~12月)	6ヵ月前 (1~3月)	3ヵ月前 (4~6月)	現況 (7~9月)	3ヵ月後 (10~12月)	6ヵ月後 (1~3月)
北海道	8	5	7	5	13	3	0
東北	-44	-36	-22	-24	-32	-30	-32
関東	-28	-20	-16	-22	-17	-23	-21
ゴールデンルート(関東⇄関西)	5	4	11	6	8	0	1
首都圏(TDR含む)	10	12	14	13	16	16	12
甲信越・北陸	-11	-19	-7	3	-14	-9	-14
東海	-14	-19	-14	-5	-12	-10	-18
大阪・京都(USJ含む)	17	21	21	21	14	10	10
近畿	-11	-6	-4	5	-16	-12	-9
山陽・山陰・四国	-27	-29	-26	-14	-34	-31	-26
九州	-24	-16	-13	-7	-17	-16	-13
沖縄	-2	-5	-2	-6	-5	-4	-6

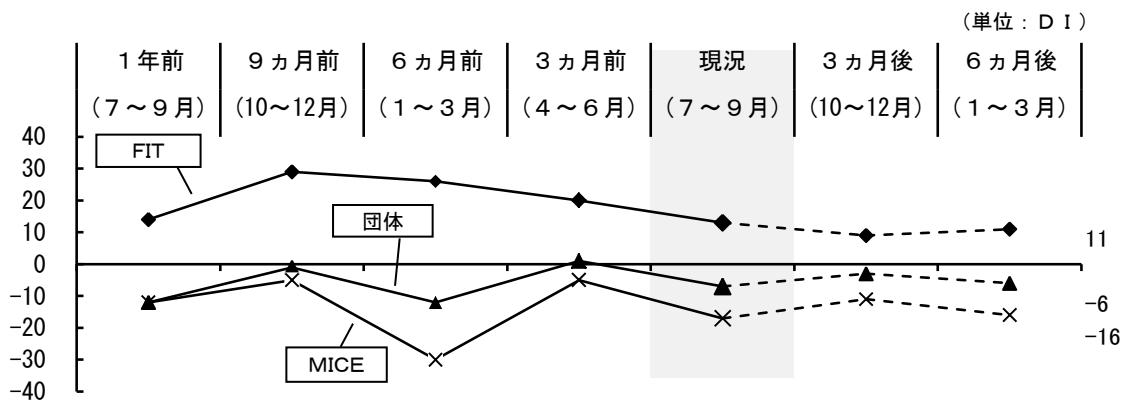
※3ヵ月前の数値は6月18日の大阪府北部地震の影響は含まれず。

現況の数値は台風21号による影響と9月6日の北海道胆振地方中東部を震源とする地震の影響は含まれず。

### ◆訪日旅行の需要動向（顧客種別）

- ・ 現況は、「MICE」（-12ポイント）、「団体」（-8ポイント）、「FIT」（-7ポイント）と、軒並み苦戦となった。「FIT」と「MICE」に関しては、1年前と比較しても若干減少している。
- ・ 3ヵ月後(10～12月)は、「FIT」は-4ポイントと低下の見込みだが、「団体」と「MICE」は回復する見通し。

N:有効回答数  
(N=120)

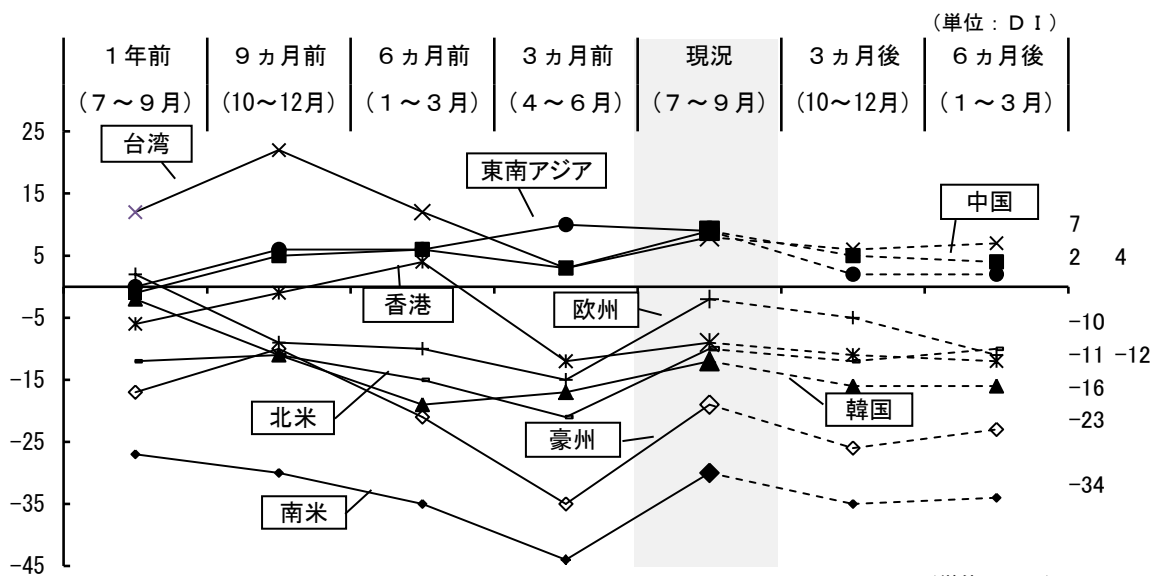


	1年前 (7～9月)	9ヵ月前 (10～12月)	6ヵ月前 (1～3月)	3ヵ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3ヵ月後 (10～12月)	6ヵ月後 (1～3月)
FIT	14	29	26	20	13	9	11
団体	-12	-1	-12	1	-7	-3	-6
MICE	-12	-5	-30	-5	-17	-11	-16

### ◆訪日旅行の需要動向（出身国別）

- ・ 現況最も伸びたのは「豪州」の+16ポイント、次いで「南米」の+14ポイント、「欧州」の+13ポイントが続く。その他の地域も「東南アジア」（-1ポイント）以外は全て上昇した。ただし「中国」、「東南アジア」（プラス9）、「台湾」（プラス8）以外の地域は、引き続きマイナス圏内での推移である。
- ・ 3ヵ月後(10～12月)には、緩やかながらも全ての地域で低下が見込まれている。もっとも減少が大きいと目されているのは「東南アジア」と「豪州」の-7ポイント。

N:有効回答数  
(N=120)



	1年前 (7～9月)	9ヵ月前 (10～12月)	6ヵ月前 (1～3月)	3ヵ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3ヵ月後 (10～12月)	6ヵ月後 (1～3月)
中国	-1	5	6	3	9	5	4
韓国	-2	-11	-19	-17	-12	-16	-16
台湾	12	22	12	3	8	6	7
香港	-6	-1	4	-12	-9	-11	-12
東南アジア	0	6	6	10	9	2	2
欧州	2	-9	-10	-15	-2	-5	-11
北米	-12	-11	-15	-21	-10	-12	-10
南米	-27	-30	-35	-44	-30	-35	-34
豪州	-17	-10	-21	-35	-19	-26	-23

※3ヵ月前の数値は6月18日の大阪府北部地震の影響は含まれず。  
現況の数値は台風21号による影響と9月6日の北海道胆振地方中東部を震源とする地震の影響は含まれず。